

2023年4月14日

報道各社 御中

全国農業協同組合連合会三重県本部（JA全農みえ）

県内トップを切って「伊勢茶」の初取引

県内3市場のトップを切って、「伊勢茶」の新茶初取引をJA全農みえ南勢茶センターで行います。

今年の茶の生育は例年より少し早く、初市は昨年より5日早い開催となります。茶園の状況は霜害もなく良好で、品質のよい新茶が育っています。

初取引では、生産者（JA販売担当者）と茶商の間に仲立人^{なかだちにん}が入り、五つ玉のそろばん片手に交渉をとりもち、話がまとまると、三者で威勢よく手を3回たたき手締めをします。昔から変わらない商習慣です。

美し国に新茶の香り。全国第3位の茶どころ三重での初取引のようすをぜひ取材いただきたく、下記のとおりご案内申し上げます。

記

■と き：2023年4月20日（木）11：00～ 初取引（相対取引^{あいたい}）

■ところ：JA全農みえ 茶販売課 南勢茶センター
多気郡大台町栞原1091
TEL 0598-85-0172

■主 催：南勢茶センター（所長 角谷 悟）



昨年度南勢茶センターでの初市のようす



<ご参考>

【昨年の初取引結果】

開 催 日	2022年4月25日
出品点数・数量	25点、293 ^{キログラム} （煎茶）
最 高 価 格	15,000円/ ^{キログラム}
平 均 価 格	5,547円/ ^{キログラム}

【伊勢茶とは】

「伊勢茶」とは、三重県内で生産されたお茶のことをいい、主に「煎茶」「深蒸し煎茶」「かぶせ茶」の3種類が生産されています。

恵まれた立地条件の中で栽培され、生育が良好なため、葉肉が厚く、一般に飲まれているお茶に比べて味・香りともに濃いのが特徴です。そのため、2煎目、3煎目まで濃厚な味わいを楽しめます。

三重県は、栽培面積、荒茶生産量ともに、静岡県、鹿児島県に次いで全国第3位のお茶どころです。茶種別では、かぶせ茶の生産量が全国第1位で、全国シェアの59.4%（2021年産）を占めています。

【三重県の風土と伊勢茶】

三重県は南北に細長い地形ですが、県内の大半は年平均気温が14～15℃と温暖で、茶の栽培に必要とされる年間降雨量1500mm以上の地域では、ほとんどが茶の生産適地となっています。

三重県での摘採時期は、地域による差はあるものの、おおむね一番茶は4月下旬から5月中旬、二番茶は6月下旬から7月上旬となっています。これは全国的に見ると、遅場の産地となります。

県内の農場では、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証である国際的な「GAP認証」を数多く取得しており、地域全体で安心・安全な緑茶づくりに取り組んでいます。

【南勢地域の伊勢茶】

J A全農みえ南勢茶センターは、県内3市場（四日市市、鈴鹿市、大台町）のうち唯一、南勢地域にある茶市場です。

南勢地域では、谷あいの傾斜地や、川沿いの平地で良質茶栽培が行われ、主に大台町、度会町で「煎茶」が、松阪市（旧飯南町、旧飯高町）で「深蒸し煎茶」が生産されています。